

## 水田内雑草発生ほ場で斑点米被害のおそれ

～ 出穂期24日後頃に茎葉散布剤で防除を ～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

8月4～5半旬の水稲抽出ほ場調査（80地点）における水田内での斑点米カメムシ類の発生地点率は21%（平成29%）でやや低かったが、すくい取り数は2.1頭（平成1.3頭）で多く、特に、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草（イヌホタルイやシズイ）が発生しているほ場で斑点米カメムシ類の発生が多かった（表-1、図-1、表-2）。

出穂期以降、気温が高く推移しており、割れ粃の発生量は多くなると予想される。

8月17日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。

以上のことから、水田内雑草の発生ほ場を中心に斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想され、斑点米被害が懸念される。

### 2. 防除対策

- 1) 斑点米は、登熟期後半から発生する割れ粃の増加に伴い、側部斑点米が主体となるので、2回目の防除が重要となる（図-2）。そのため、ノビエなどの水田内雑草があるほ場、牧草地や休耕田などの発生源に隣接しているほ場では、出穂期24日後頃に、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤を散布する。
- 2) 茎葉散布剤はキラップフロアブル・同粉剤DL（使用時期は収穫14日前まで）又はエクシードフロアブル・同粉剤DL（使用時期は収穫7日前まで）とする。ただし、セジロウンカが多発しているほ場では、同時防除が可能なエクシード剤を選択することが望ましい。

### 3. その他

- 1) 畦畔・農道及び雑草地（法面や休耕田など）の草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行う。
- 2) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努める。
- 3) 農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合は、飛散しにくい散布ノズルを使用する等の飛散防止対策を講じる。

#### 4. 資料

表-1 水田内での斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月4~5半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)
2023	2.1	21	2.0	18	0.1	6
平年	1.3	29	1.0	24	0.2	7
概評	多	やや少	多	やや少	並	並

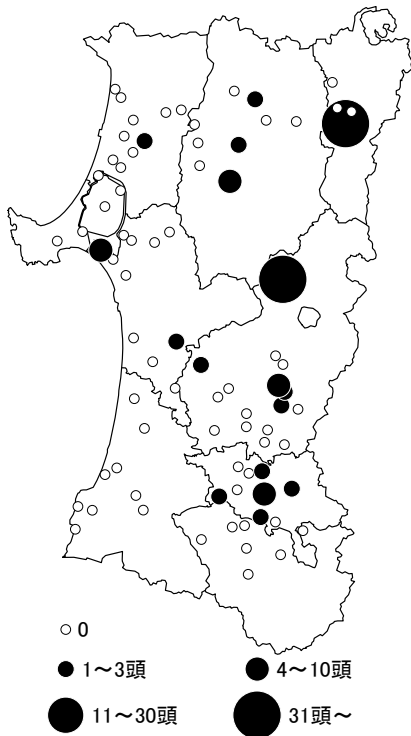


図-1 水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月4~5半旬)

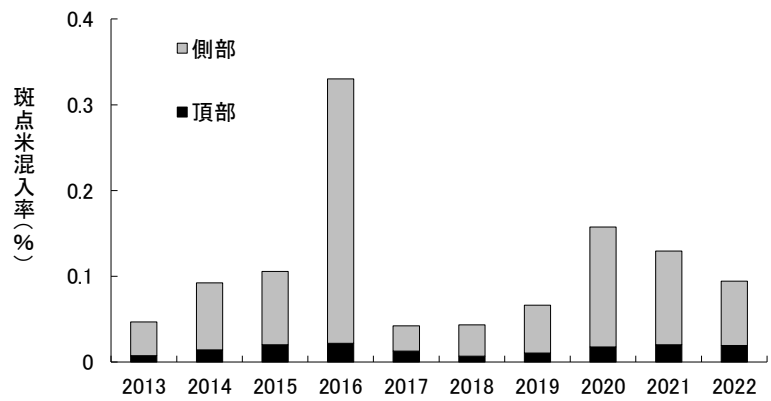


図-2 斑点米の加害部位別混入率の年次推移 (年)

表-2 水田内雑草の発生状況別すくい取り数(8月4~5半旬)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況 別地点数	斑点米カメムシ類 (頭)
あり	33	5.1
なし	47	0.2

※水田内20回すくい取り調査

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326  
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>